

大新 正修 大藏經索引



第四十五冊
續 諸 宗 部
五



新文豐出版公司 影印

大正 大藏經索引 第45冊 續諸宗部五
新修

中華民國81年4月台1版

精1冊基價15.7元

編集者：大藏經學術用語研究會

發行者：高 本 釗

發行及：新 文 豐 出 版 公 司
印刷所

公 司：臺 北 市 雙 園 街 9 6 號

電 話：3 0 6 0 7 5 7 · 3 0 8 8 6 2 4

門市部：臺北市羅斯福路一段20號8樓

電 話：3 4 1 5 2 9 3 · 3 4 1 5 2 9 4

台 北 郵 政 3 6 4 3 信 箱

登記證：局版臺業字第0649號

郵政劃撥：0 1 0 0 4 4 2 6 號

ISBN 957-17-0447-4 (套)

ISBN 957-17-0461-X (第四十五冊：精裝)

出版說明

本「大正藏續編索引」第三二至四八冊係根據大正新修大藏經續編第五六至八五冊所作諸內容索引，這是日本大藏經學術研究會邀請六所佛教大學——立正、大谷、大正、龍谷、駒澤、高野山等負責編撰本索引，深獲各界好評，特此推介學林，以公諸讀者。

凡其五五冊正編部份所作三一冊索引，業於民國六十九年景印刊行，屢經讀者多方詢問：何時得以全部出齊，以利學者應用；經數年來考核評量，並得鄰國日本諒解，為使此國際性工具書，俾以完整面目提供學者使用，特此全數景印，有了這部索引，任何問題都可以迎刃而解，可知此部索引存在價值是何等珍貴，謹此說明。

本公司編輯部 謹啟壬申年元月

簡介研讀大藏經的工具書

楊白衣

～法寶總目錄與大藏經索引之功用～

研讀大藏經是每一位佛子嚮往的終身大事，不研究則已，若想研究，則非賴特殊工具書莫辦。過去研究佛學，一、靠辭典，二、靠年表，三、靠經書目錄，但這些工具書已無法收到事半功倍之效，勢必另覓他途解決。

日本學者對此提供了最有力的工具書二種，其嘉惠學界之深，誠令吾人嘆為觀止！此二種工具書，一曰『法寶總目錄』，一曰『大藏經索引』。案此二部書之主要功用如下：

一、法寶總目錄之功用可查下列事項：

- (一)知著者而不知其著作。
- (二)知經書而不知著者、譯者。
- (三)知經書而不知有無異譯本。
- (四)知經書而不知何代、何年、何人之著譯。
- (五)知經書而不知內容章節。
- (六)知經書而不知在何處（第幾冊、幾頁）
- (七)知經書而不知有無前人之註解。
- (八)查著譯者之籍貫、俗姓、生卒年。
- (九)查經書之原名、漢譯名、日譯名。
- (十)查經書在各種版本之歸屬。

二、大藏經索引之功用有下列事項：

- (一)查法相、名數之所在以及定義等。
- (二)查人名、地名等所有固有名詞之原名，出現次數以及同名異人。
- (三)查某一術語在某一部經書中之用例、定義、異名及在各宗派中之觀點。
- (四)查五十種分類項目（詳如下表）之所在以及佛教的人生觀、宇宙觀。
- (五)查典籍之解題以及在國際上現今的研究成果。
- (六)查每冊藏經之詳細內容以及佛教之觀點。

『法寶總目錄』共三巨冊，除檢查上述各種要目之外兼有經錄的性質，不但收錄了各版本藏經，如『明藏』、『訶藏』、『訶續藏』等目錄，以及名庫所藏之書目，且有智旭大師的『閱藏知津』與陳實的『大藏一覽集』，可查每一部經律論（一七七三部）之解題、音義、傳記、疏鈔、目錄、纂集、護教、序讚、詩歌等，極為方便。

『大藏經索引』是根據日本『大正新修大藏經』（中華文化會館及新文豐出版公司影印之大藏經）前五十五冊所作之內容索引，這是日本大藏經學術研究會邀請六所佛教大學負責編撰的索引。其索引之計劃工作本以名學者小野玄妙博士（佛書解說大辭典作者）為中心，從民國三十二年開始著手，並已刊行了阿含部、目錄部、法華部各乙冊。這個計劃後來由於博士之逝世和第二次世界大戰之影響而不得不告中斷。直到民國四十五年由大谷大學、高野山大學、駒澤大學、大正大學、立正大學、龍谷大學等六所佛教大學重新提議，計劃把『大正新修大藏經』中之印度、中國、日本等三國選述之部分共計八十五冊之內容作成索引四十八冊以利學者應用。這六所佛教大學合議之結果，組成大藏經學術用語研究會，對內容的分類項目先行檢討後，決定以下列的原則展開工作。

一、以小野玄妙博士之計劃為藍本，分為分類項目別索引、音次索引、字劃索引、四角號碼索引、梵語索引、使其成為國際性之工具書。

二、用語之選擇，以漢譯大藏經為準，以總合研究之方法，每頁選出五十個學術用語，而把它配於五十種分類項目。五十種分類項目，以印度撰述部分為中心，而每項目之下再細分若干細目，其詳目如下：

1. 教 說：經典分類名目（三藏、九分教、十二分教等）……a通說 b三藏 c九分教 d十二分教
2. 教 判：有關大乘小乘，一乘三乘，密宗及各宗判教之用語……a通說 b大小乘 c一三乘 d各說
3. 教 理：表示教理之用語如三法印、空、中、緣起、佛性、如來藏等……a通說 b各說
4. 法 相：有關構成宇宙萬象的現象與本體之用語，與五位諸法有關連的名稱……a通說 b色法 c心法 d非色非心法
5. 惑 業：有關說明輪迴的惑障，業道之用語（除緣起、因果）……a通說 b惑 c業 d苦
6. 行 位：表示修行道位及得果的有關斷惑證理之用語……a通說 b凡夫位 c聲聞緣覺位 d菩薩位

- 7.戒律：有關戒律之種類、細目、持犯等之用語……a通說 b各說
- 8.禪觀：有關一般禪定、三昧、觀法之用語……a通說 b禪定 c觀法
- 9.世界：有關三界、六道等之用語……a通說（包括三界六道，二十五有）b天 c大 d地獄 e餓鬼 f畜生 g阿修羅 h其他
- 10.佛：有關佛的德性、身土、佛名、諸尊之用語……a通說 b德性 c佛身 d佛土 e佛名 f諸尊
- 11.人名：按照身分分類之固有名詞……a比丘比丘尼 b優婆塞優婆夷 c仙人 d外道 e菩薩 f其他
- 12.教派：有關學派、宗派之用語……a學派 b宗派
- 13.教團：有關僧伽、教團之法規及僧階之用語……a通說 b法規 c僧階 d其他
- 14.寺院：有關寺院之用語……a通說 b各說
- 15.信仰：有關各種信仰之用語……a通說 b各種信仰（包括稱名唱題等）
- 16.儀禮：有關佛事及僧衆等一般儀式、作法之用語……a通說 b佛事 c作法 d僧衆行儀
- 17.事相：有關密宗四度加行、灌頂行法之用語……a通說 b行法 c四度加行 d護摩 e灌頂 f其他
- 18.曼荼羅：有關密宗行法修行之本尊曼荼羅之用語……a通說 b各說
- 19.印契：有關密宗於行法時結印契（手印）之用語……a通說 b各說
- 20.陀羅尼：有關陀羅尼之用語……a通說 b真言（純密） c其他
- 21.外教：有關婆羅門教、印度諸學派、儒教、道教、神道之用語……a通說 b婆羅門 c印度諸學派 d儒教 e道教 f神道 g其他
- 22.咒術：有關幻化、咒術之用語……a通說 b幻化 c咒術
- 23.天文曆數：有關天文、時節、方位、算數、度量衡之用語……a通說 b日月星宿 c氣象 d時分 e歲月 f宿曜曆及吉凶日 g方位 h算數 i度量衡
- 24.地理：有關地理、地名之用語……a通說 b地名 c山名 d水名 e園林名
- 25.動物：有關動物之用語……a通說 b各說
- 26.植物：有關植物之用語……a通說 b各說
- 27.礦物：有關礦物之用語……a通說 b各說
- 28.物理：認為與物理，化學有關之用語……a通說 b色 c形狀 d聲音 e光熱
- 29.論理：有關因明，論理學之用語……a因明 b論理。

- 30.心理：認為與心理學有關之用語
- 31.倫理：有關倫理、道德之用語（例如恩義等）
- 32.教育：有關教育之用語。
- 33.生理衛生：有關生理與衛生之用語……a通說 b身體 c出生 d生理 e衛生
- 34.醫術藥學：有關醫術、藥學之用語……a通說 b療法 c病名 d藥
- 35.民族：有關民族、種族之用語……a民族 b種族 c其他
- 36.社會：有關家族、身分、階級等之用語……a通說 b家族 c身分 d階級 e其他
- 37.政治經濟：有關政治、法制、軍事、經濟之用語……a通說 b行政 c法律 d財政 e軍事
- 38.產業：有關一般職業之用語……a通說 b職業
- 39.風習：有關飲食、衣服、風俗之用語……a通說 b食物 c調味料 d飲料 e衣服 f裁縫 g風俗 h娛樂
- 40.言語：有關語言之種類、文字、文法、翻譯之用語以及梵語，巴利語等之音譯名詞……a通說 b種類 c文字 d文法 e翻譯 f音譯名詞 g其他
- 41.名數：以數目合成之用語
- 42.典籍：有關一般典籍之用語（包括品名）
- 43.紀年：有關年號、干支、王朝等之用語
- 44.文藝：譬喻、因緣、詩頌等與文藝有關之用語……a通說 b本生 c因緣 d譬喻 e文疏 f詩偈
- 45.音樂：有關音樂之用語……a通說 b音聲律呂 c調子 d聲譜 e典目 f樂器。
- 46.建築：有關建築之用語……a通說 b種類 c規模 d技法 e堂舍
- 47.圖像：有關佛、菩薩等的繪畫、彫刻之用語……a通說 b繪畫 c彫刻
- 48.工藝：有關美術工藝之用語……a通說 b題目 c形像 d素材 e技巧
- 49.器物：有關器具、佛具之用語……a通說 b佛具 c器具
- 50.雜語：不屬於上述四十九項目之詞彙

六家大學的分擔情形，到目前為止已出版者如下：

甲、印度撰述部

索引第一冊	阿含部	駒澤大學	大正藏第一、二冊
索引第二冊	本緣部	高野山大學	大正藏第三、四冊
索引第三冊	般若部	大正大學	大正藏第五～八冊

索引第四冊	法華涅槃部	龍谷大學	大正藏第九、第一二冊
索引第五冊	華嚴部	龍谷大學	大正藏第九、一〇冊
索引第六冊	寶積部	大谷大學	大正藏第一一、一二冊
索引第七冊	大集部	龍谷大學	大正藏第一三冊
索引第八冊	經集部(上)	駒澤大學	大正藏第一四、一五冊
索引第九冊	經集部(下)	大谷大學	大正藏第一六、一七冊
索引第一〇冊	密教部(上)	高野山大學	大正藏第一八、一九冊
索引第一一冊	密教部(下)	大正大學	大正藏第二〇、二一冊
索引第一二冊	律部(上下)	駒澤大學	大正藏第二二~二四冊
索引第一三冊	釋經論部中觀部	駒澤大學	大正藏第二五、二六、三〇冊
索引第一四冊	毘曇部(上)	立正大學	大正藏第二六~二八冊
索引第一五冊	毘曇部(中)	龍谷大學	大正藏第二六~二八冊
索引第一六冊	毘曇部(下)	大谷大學	大正藏第二九冊
索引第一七冊	瑜伽部(上下)	立正大學	大正藏第三〇、三一冊
索引第一八冊	論集部	龍谷大學	大正藏第三二冊

乙、中國選述部

索引第一九冊	經疏部(一)	大正大學	大正藏第三三、三四冊
索引第二〇冊	經疏部(二)	大谷大學	大正藏第三五、三六冊
索引第二一冊	經疏部(三)	龍谷大學	大正藏第三七、三八冊
索引第二二冊	經疏部(四)	高野山大學	大正藏第三八、三九冊
索引第二三冊	律疏部論疏部(一)	龍谷大學	大正藏第四〇、四一冊
索引第二四冊	論疏部(二)	大谷大學	大正藏第四二~四四冊
索引第二五冊	諸宗部(一)	立正大學	大正藏第四四、四五冊
索引第二六冊	諸宗部(二)	大正大學	大正藏第四六、四七冊
索引第二七冊	諸宗部(三)	駒澤大學	大正藏第四七、四八冊
索引第二八冊	史傳部(上)	大谷大學	大正藏第四九、五〇冊
索引第二九冊	史傳部(下)	龍谷大學	大正藏第五一、五二冊
索引第三〇冊	事彙部外教部	高野山大學	大正藏第五三、五四冊
索引第三一冊	目錄部	立正大學	大正藏第五五冊

丙、日本撰述部

索引第三二冊	續經疏部(一)	立正大學	大正藏第五六、五七冊
索引第三三冊	續經疏部(二上)	高野山大學	大正藏第五八、五九冊
索引第三四冊	續經疏部(二下)	高野山大學	大正藏第六〇、六一冊
索引第三五冊	續律疏部	駒澤大學	大正藏第六二冊
索引第三六冊	續論疏部(一)	大谷大學	大正藏第六三~六五冊
索引第三七冊	續論疏部(二上)	龍谷大學	大正藏第六五、六六冊
索引第三八冊	續論疏部(二下)	龍谷大學	大正藏第六六~六八冊
索引第三九冊	續論疏部(三)	龍谷大學	大正藏第六八~七〇冊
索引第四〇冊	續諸宗部(一)	立正大學	大正藏第七〇、七一冊
索引第四一冊	續諸宗部(二)	大谷大學	大正藏第七二~七四冊
索引第四二冊	續諸宗部(三上)	大正大學	大正藏第七四~七七冊
索引第四三冊	續諸宗部(三下)	高野山大學	大正藏第七七冊
索引第四四冊	續諸宗部(四)	高野山大學	大正藏第七八、七九冊
索引第四五冊	續諸宗部(五)	駒澤大學	大正藏第八〇~八二冊
索引第四六冊	續諸宗部(六)	大谷大學	大正藏第八三、八四冊
索引第四七冊	悉曇部	大正大學	大正藏第八四、八五冊
索引第四八冊	古逸部、疑似部	駒澤大學	大正藏第八五冊

本索引之最大特色為站在最新的研究成果，以梵文、巴利文等音譯，固有名詞為中心，盡量地附註羅馬字拼音的原文。

『大藏經索引』用途之大，吾人得由五十種分類項目窺見一斑，於此不但可見佛法大海之廣闊無邊，且能證明佛法之多面性格，其內容有人文科學、社會科學、自然科學，應有盡有。以前吾人研究佛學總有望洋興嘆，不知所措之感，現在有了這部索引，任何問題都可迎刃而解，吾人可隨意查閱自己所欲了解之事項。於此不但可查出該用語在大藏經中的所在（頁數），亦可比照各宗派對該問題之看法。不像已往想查尋一個問題往往得花費許多時間，仍無法解決問題，至於想比較研究那就更困難了。例如：有關「業」與「輪迴」之問題來說，可將原始佛教、部派佛教、大乘佛教中較代表性之經論，如：阿含經、俱舍論、成業論、中觀論等之有關「業」與「輪迴」之記載，依索引的指示抄錄出來，然後加以研究原義以及發展的過程。這豈不是輕而易舉之事。在未有索引以前吾人必須讀破整部經典，方能洞悉該問題之所在，而且仍無法收集完整的資料。

又例如吾人想知道佛教對生理衛生的看法，對國家、社會的看法，則可隨便找一本索

引，查閱有關這些問題之所在，然後找某一部經論研讀。這在以前是做夢也想不到的事，由此可知這部索引之存在價值是何等地珍貴了。

總之，研究佛學『法寶總目錄』與『大藏經索引』為學者不可缺的重要工具書。

收 錄 典 籍 解 題

本書は、大正新脩大藏經第80卷、第81卷、及び第82卷に收録される、次に掲げる續諸宗部諸典籍の索引である。

經典番號	典籍名 (卷數)	撰者等
(第80卷)		
No. 2543	興禪護國論 (3卷)	日本 榮西撰
No. 2544	聖一國師語錄 (1卷)	日本 圓爾辨圓語・嗣孫師鍊纂
No. 2545	寶覺禪師語錄 (1卷)	日本 東山湛照語
No. 2546	佛照禪師語錄 (2卷)	日本 白雲慧曉語・嗣法希白等輯
No. 2547	大覺禪師語錄 (3卷)	日本 蘭溪道隆語・侍者圓顯等編
No. 2548	圓通大應國師語錄 (2卷)	日本 南浦紹明語・侍者祖照等編
No. 2549	佛光國師語錄 (10卷)	日本 子元祖元語・侍者一眞等編
No. 2550	圓鑑國師語錄 (一巻)	日本 藏山順空語・侍者編
No. 2551	佛國禪師語錄 (2卷)	日本 高峯顯日語・侍者妙環等編
No. 2552	南院國師語錄 (3卷)	日本 規庵祖圓語・侍者慧眞等編
No. 2553	一山國師語錄 (2卷)	日本 一山一寧語・侍者了眞等編
No. 2554	竺僊和尚語錄 (4卷)	日本 竺僊梵仙語・侍者裔堯等編
No. 2555	夢窓國師語錄 (3卷)	日本 夢窓疎石語・侍者本元等編
No. 2556	義堂和尚語錄 (4卷)	日本 義堂周信語・門人中圓等編
No. 2557	閻浮集 (1巻)	日本 鐵舟德濟撰
No. 2558	鹽山拔隊和尚語 (6卷)	日本 拔隊得勝語
No. 2559	無文禪師語錄 (1巻)	日本 無文元選語
No. 2560	知覺普明國師語錄 (8卷)	日本 春屋妙葩語・侍者周佐等編
No. 2561	絶海和尚語錄 (2巻)	日本 絶海中津語・小師俊承等編

(第81卷)

- | | | |
|----------|---------------|------------------|
| No. 2562 | 常光國師語錄 (2卷) | 日本 空谷明應語・侍者編 |
| No. 2563 | 大通禪師語錄 (6卷) | 日本 愚中周及語・侍者某甲編 |
| No. 2564 | 永源寂屋和尚語錄 (2卷) | 日本 寂室玄光語 |
| No. 2565 | 佛頂國師語錄 (5卷) | 日本 一絲文守語・文光編 |
| No. 2566 | 大燈國師語錄 (3卷) | 日本 宗峯妙超語・侍者性智等編 |
| No. 2567 | 徹翁和尚語錄 (2卷) | 日本 徹翁義享語・遠孫禪興編 |
| No. 2568 | 雪江和尚語錄 (1卷) | 日本 雪江宗深語・遠孫禪悅輯 |
| No. 2569 | 景川和尚語錄 (2卷) | 日本 景川宗隆語・侍者某等編 |
| No. 2570 | 虎穴錄 (2卷) | 日本 悟溪宗頓語・門人某等編 |
| No. 2571 | 少林無孔笛 (6卷) | 日本 東陽英朝語・侍者某等編 |
| No. 2572 | 見桃錄 (4卷) | 日本 大休宗林語・遠孫比丘某等編 |
| No. 2573 | 西源德芳和尚語錄 (3卷) | 日本 特芳禪傑語・遠孫宗怡重編 |
| No. 2574 | 槐安國語 (7卷) | 日本 白隱慧鶴語 |
| No. 2575 | 宗門無盡燈論 (2卷) | 日本 東嶺圓慈撰 |
| No. 2576 | 五家參祥要路門 (5卷) | 日本 東嶺圓慈編 |
| No. 2577 | 大鑑清規 (1卷) | 日本 清拙正澄撰 |
| No. 2578 | 諸回向清規 (5卷) | 日本 天倫楓隱撰 |
| No. 2579 | 小叢林清規 (3卷) | 日本 無著道忠撰 |

(第82卷)

- | | | |
|----------|--------------|--|
| No. 2580 | 普勸坐禪儀 (1卷) | 日本 道元撰 |
| No. 2581 | 學道用心集 (1卷) | 日本 道元撰 |
| No. 2582 | 正法眼藏 (95卷) | (當該藏經に收録される本書は、テクストクリティークの面から諸種の問題があり必ずしも最良の本とは言えず、かつ別の校訂本に基づきコンコーダンスが作成されているなどの諸般の状況から、當該索引からは除外することにした。) |
| No. 2583 | 永平元和尚頌古 (1卷) | 日本 道元語・侍者詮慧等編 |
| No. 2584 | 永平清規 (2卷) | 日本 道元撰 |
| No. 2585 | 傳光錄 (2卷) | 日本 瑩山紹瑾語・侍者編 |
| No. 2586 | 坐禪用心記 (1卷) | 日本 瑩山紹瑾撰 |

No. 2587	信心銘拈提 (1 卷)	日本 瑩山紹瑾撰
No. 2588	十種勅問奏對集 (1 卷)	日本 瑩山紹瑾語・侍者編
No. 2589	瑩山清規 (2 卷)	日本 瑩山紹瑾撰
No. 2590	光明藏三昧 (1 卷)	日本 孤雲懷奘記
No. 2591	義雲和尚語錄 (2 卷)	日本 義雲語・侍者圓宗等編
No. 2592	通幻靈禪師漫錄	日本 通幻寂靈語・門人普濟編
No. 2593	實峯禪師語錄 (1 卷)	日本 實峯良秀語・門人慈恩等編
No. 2594	普濟和尚語錄 (3 卷)	日本 普濟善救語・門人禪雄等編
No. 2595	月坡禪師語錄 (4 卷)	日本 月坡道印語・侍者元湛等編
No. 2596	月舟和尚遺錄 (2 卷)	日本 月舟宗胡語・侍者曹源編
No. 2597	獨菴獨語 (1 卷)	日本 獨菴玄光撰
No. 2598	東林語錄 (4 卷)	日本 卍山道白語・門人湛堂等編
No. 2599	禪戒訣 (1 卷)	日本 卍山道白語・門人白龍編
No. 2600	報恩編 (3 卷)	日本 天桂傳尊語・侍者記
No. 2601	禪戒鈔 (1 卷)	日本 萬仞道坦輯
No. 2602	心學典論 (4 卷)	日本 無隱道費撰
No. 2603	荒田隨筆 (4 卷)	日本 指月慧印撰
No. 2604	建康普說 (1 卷)	日本 面山瑞芳語・門人本猛等編
No. 2605	普照國師語錄 (3 卷)	日本 隱元隆琦語・門人性瑫等編
No. 2606	普照國師法語 (2 卷)	日本 隱元隆琦語・門人性杲等編
No. 2607	黃檗清規 (1 卷)	日本 隱元隆琦語・法孫性澈等編

大正新脩大藏經第八十卷（經典番號2543から2561まで）及び第八十一卷（經典番號2562から2579まで）は、續諸宗部第十一冊と第十二冊に相當し、日本禪宗の初祖、臨濟宗建仁寺開祖榮西の「興禪護國論」を始めとする日本臨濟宗諸派に屬する典籍三十七部百二十卷を收録している。第八十二卷（經典番號2580から2607まで）は續諸宗部第十三冊であり、日本曹洞禪の祖道元の「普勸坐禪儀」以下、瑩山の「傳光錄」より江戸期曹洞宗學の泰斗面山瑞芳の「建康普說」及び黃檗宗關係では隱元隆琦の語錄、法語と「黃檗清規」に至る典籍二十八部百四十七卷を收録している。

以下收録の順序に従い、その概要を記せば次の如くである。

(第80卷)

No2543 興禪護國論(三卷)は建久九年(1198)榮西五十八歳の時の著述とされるが、一部三卷を令法久住門、鎮護國家門、世人決疑門、古人決疑門問、古德誠證門、宗派血脈門、典據增信門、大綱勸參門、建立支目門、大國說話門、迴向發願門、の十門に分ち廣く經論疏章等を引照しながら、禪宗の獨立の理由とその必要性とを論じている。榮西は叡山の學僧として天台の教學に造詣が深く、且つまた眞言密教を特に深く究め、台密の葉上流を開いた點では、後の純粹な禪とは異なる圓密禪三宗一致の禪であつた。更に本書では特に戒律を重視し、禪の基本に据えている點では、彼の禪は圓禪戒密の四宗一致の禪と規定される如くであり、その點では最澄の宗教が圓禪戒密の四宗相承を掲げて開宗したのとい脈相通ずるものがある。ただ最澄は法華圓教を中心とする佛教であるのに對し、榮西は禪を佛教の根源につながる教えとして、禪本位の立場を貫き禪宗を獨立の一宗として對揚せんとした點が大いに異なると言うべきだろう。なお大正大藏經に收録される該書は、建仁寺藏重刊本を底本とし、縮刷大藏經所收の本と校勘を行っている。

No2544 聖一國師語錄(一卷)は、榮西の弟子榮朝と行勇に従い、別に一派をなした東福寺開山圓爾辨圓(1202-1280)の語錄の中の東福寺語錄、法語、偈頌、佛祖贊、自贊と宋の徑山の無準師範及び四明天童の了慧禪師の書牘を収めたものであり、初刻は元徳三年(1331)二月五日東福寺十五世三聖寺虎關師鍊が序文を附して校纂したものである。再刻は元和六年(1620)二月、東福寺二百二十三世集雲守藤和尚が、聖一國師年譜再刊の餘資を以て再刻し、東福寺藏板として上梓したものである。三刻は文政十二年(1892)十月に虎關の法孫の令林和尚により元和本を釐整し、三林長老請以下六首の自贊を追加して、彼の示寂の地たる東福寺常樂庵の藏板として刊行流通せしめたものであり、大正大藏經本、佛教全書本及び國譯禪宗叢書本等はこの文政本を参照したものである。

No2545 寶覺禪師語錄(一卷)は、東山湛照(1231-1291)の語要を輯めたものである。彼は初め淨土教を學んだが、後に圓爾の室に入つてその法を嗣いだ。三聖寺の開山となり、次いで萬壽寺に移り、圓爾の寂後東福寺二世となった。伏見天皇の歸依をうけ、宮中でも法を説いた。正應四年八月八日盜賊により刺殺された。圓通寺に塔をたて、寶覺禪師の勅諡があつた。「元亨釋書」の著者虎關師鍊は彼の高弟であり、この門派を三聖門派と言う。

彼の語錄は、延寶二年八月八日西堂光鶴和尚の誌すところによると、遺藁の少分であると言うが、弘安四年二月二十七日三聖寺進山の法語、上堂語、小參、偈頌、祭文、自贊等を収めたものであり、東山五十一歳以後の作である。

No2546 佛照禪師語錄（二卷）は、東福寺開山圓爾辨圓の法嗣として東福四世に進住し栗棘庵を創建した白雲慧曉（1223-1297）の東福寺語録を、法嗣である承天寺虛室希白等が輯録したものであり、應永八年と文化十年等の寫本が伝えられているが、大正大藏經に收録されているものは文化十年の寫本に依っている。本語録は上下二卷本であり、上卷には東福寺進山語要、上堂小參の語要が収められている。下卷には小佛事、辭世、學人に與えた法語、雜篇（祭文序跋）、佛祖讚、偈頌が収められている。卷末には「元亨釋書」より白雲慧曉傳を掲出し、更に應永八年五月二十五日妙哲和尚の識語並びに上下各卷末に文化十年十一月五日東福寺二百六十九世靈雲院天瑞守選和尚の寫本についての跋文、不二庵看住守物修補等が輯録されている。

No2547 大覺禪師語錄（三卷）は宋の西蜀涪江の人で、楊岐派の無準師範、癡絕道沖、北磻居簡等に相次いで参じ、後に陽山の無明慧性に参じて得悟し、寛元四年（1246）弟子義翁、龍江等を伴ない來朝し、時頼の請によって建長寺開山第一世となった蘭溪道隆（1213-1278）の常樂寺語録、建長寺語録、建寧寺語録の三會録より成るものであり、常樂寺語録は侍者圓顯及び智光の、建長寺録は侍者覺慧・圓範の、建寧寺録は侍者了禪從琛の編になるものであり、中卷の後半より下卷には、侍者德昭の編した常樂寺小參六篇、建長寺小參五十五篇、建寧寺小參十八篇、普說三篇、法語二十三篇、頌古、偈頌、佛祖讚、小佛事等が輯録されており、更に宋の法照の序文と虛堂智愚の跋文も併載されている。現行本は文政十年板によって普說一篇を加えて大覺拾遺録とし、梵語心經、道隆註心經疏一卷、遺誠、常樂寺定規、塔記、梅峯竺信の拾遺録跋文を收録している。

No2548 圓通大應國師語錄（二卷）は建長寺第十三世南浦紹明（1235-1309）一代の法語・詩偈を輯録したもので、侍者祖照、慈禪、宗心、克原等の編纂による。輯載されたものは文永七年十月筑前國興徳寺、文永九年十二月太宰府崇福寺、嘉元三年七月京都萬壽寺、徳治二年十二月鎌倉の建長寺等に歴住中の法語であって、以上の他に佛祖贊、小佛事、偈頌、及び永祚寺住持廷俊の撰になる圓通大應國師塔銘等が輯録されている。

No2549 佛光國師語錄（十卷）は中國徑山の無準師範の法嗣で、南嶽下二十世の法を継ぎ、北條時宗に請せられて來日、鎌倉建長寺五世となり鎌倉圓覺寺の開山となった無學祖元（1226-1286）の語録を侍者一眞、德溫、眞慧等が輯録し、第九卷は光一が「拾遺雜録」として法語、書簡、偈頌、偈讚、跋、附録、無學禪師行狀、冢蓋及び國師徽號履蹟等を編纂した。第十卷は佛光國師年表雜録及び佛光禪師塔銘とを收録している。

なお、貞治六年、應安三年の五山版、寶永二年の木活本、寛文四年、享保十一年本等の

刊本が存するが、佛教全書本及び大正大藏經本等は十卷の享保本に依ったものであり、禪學體系本は十卷本中の第六卷普説及び第七卷の法語とを収録し、國譯禪宗叢書本は四卷本に依ったものであり、十卷本の卷四の内の普説以下は未収録である。

No2550 圓鑑國師語録（一卷）は、圓爾辨圓の法嗣であり、永明門派の祖である京都東福寺六世藏山順空（1233-1308）の語要を侍者が輯録したものである。篇次は文永七年（1270）初住地肥前高城寺語要六十四、正安二年（1300）京都東福寺語要三十七、法語一、小佛事四、贊九、自贊十一、偈頌五、遺偈（徳治二年五月九日）（1308）一及び虎關師鍊撰「圓鑑禪師傳」等である。なお、大正大藏經所收の本典は東福寺藏の寫本に依っている。

No2551 佛國禪師語録（二卷）は、後嵯峨天皇の皇子で十六歳にて圓爾辨圓について出家參究し、後に一翁院豪の招きによって無學祖元に參見し、無學より印可を受けてその法嗣となった高峯顯日（1241-1316）の語要を侍者の妙環、玄仁、妙康等が輯録したものである。上卷には靈石如芝及び清拙正澄の序文を卷首に、高峯顯日が開山となった那須の雲巖寺での上堂語等を録し、次いで淨妙寺、淨智寺、再住淨智寺、建長寺等での上堂語等を掲げる。下卷では、普説、法語、佛祖讃、自讃、頌古（附偈頌）、機縁門答及び古林清茂の跋文を輯録し、次いで妙禪の「高峯和尚行録」を掲げ、末尾に寶永六年十月二十日の幹事比丘等の舊刻湮沒による再版に到る因縁を記載している。

No2552 南院國師語録（三卷）は、無學祖元の法嗣、南嶽下二十一世、京都南禪寺二世規菴祖圓（1261-1313）の龍安山禪林寺（後改め瑞龍山南禪寺）語録を侍者慧眞等が纂録したものである。本書は三卷二冊、延元元年本、正徳元年木治本、文久二年本等があり、大正大藏經の外に佛教全書第九十五卷中にも収録されている。大正大藏經中の本書は、文久二年の南禪寺藏版の瑞龍山板に基づいている。

上卷は慧眞、光宗、妙準和尚等の編により、正應四年十二月、龜山上皇の詔によって本寺が建立され、同五年三月入寺に際しての開堂語、小參、上堂語を収め、中卷には、虎關師鍊、志高、一叢和尚等の編になる上堂語が収録され、下卷には智明、淨心、居潤和尚等の編による上堂語、小參の語要が収められている。更に附録として、偈頌、延元元年八月法嗣蒙山智明撰の行狀、清拙正澄の跋、及び鏡堂、元翁、清拙、竺山、一山、絶海、虎關等の規菴に対する偈頌等が輯録されている。

No2553 一山國師語録（二卷）は、頑極行彌の法嗣で、來朝僧一山一寧（1247-1317）の祖印寺、寶陀觀音寺、建長寺、兼住圓覺寺、再住建長寺、淨智寺、南禪寺における上堂語、小參、法語、拈古、頌古、偈頌、贊佛祖、自讃、小佛事、行記を侍者の了眞等が編纂

したもので、大正大藏經の他に大日本佛教全書第九十五卷にも收録されている。卷初に本覺如芝の序、卷末に文保元年（1317）の後宇多上皇國師號宣下の勅書、元應元年（1319）國師三周諱の上皇の頂相贊、正和二年（1314）の上皇の勅書、文保元年十月二十七日遷化に際しての祭文、元の成宗の大徳二年五月二十一日、同帝より金襴衣及び妙慈弘濟大師の徽號を賜い東渡を勸奨した勅書及び古林清茂、育王德明、中峯明本等諸禪師の題跋を附録としている。本録の編纂は七會の語録の一々に、その編者を擧げており、また元亨釋書、本朝高僧傳並びに延寶傳燈錄等によって見ても、一山の在世中にその輯録が行われ、一山によって修冊が加えられていたことが知られる。

No2554 竺仙和尚語録(四卷)は、古林清茂の法嗣である南嶽下二十二世竺仙梵僊(1292-1348)の語要を侍者裔堯、海壽等が輯録したものである。竺仙の語録は五山版元祿十五年七月刊行本、佛教全書本、國譯禪宗叢書本及び大正大藏經第八十卷所收本等の刊行本、その他諸種の書寫本が存する。大正大藏經所收の竺仙和尚語録によって、其の編次を略記すれば以下の如くである。

卷上の卷首に元の至正二十四年十月（1361）紹興路崇報禪寺の行中至仁が竺仙の法嗣椿庭の要請により撰した序文を載せる。(一)正慶元年二月三日（1332）入寺した稻荷山淨妙禪寺語録であり、入寺語録から始まり足利尊氏の嚴父觀心公貞の周年忌日の陞座語要などがあり、建武元年淨智寺に移る際の上堂語に終る。(二)曆應四年三月二十日（1341）入寺の際の瑞龍山南禪寺語録であり、入寺語を始めとして後醍醐天皇三周諱辰及び尊氏の母二品太夫人のための拈香普說、太上天皇臨幸對聖陞座、南院國師三十三回忌辰普說拈香等が收録されている。(三)貞和二年二月（1346）六日入寺した際の眞如禪師語録で本師古林清茂への拈香、征夷大將軍仁山大居士の預修拈香、建長寺の請を受けて眞如退院上堂をした際の語要を收録する。

卷中では(一)貞和三年正月二十日（1347）入寺した巨福山建長禪寺語録で佛乘禪師十三年忌辰陞座、護良親王十三回忌諱辰につき寶塔建立の佛事を修し、貞和四年四月建長寺退院上堂等の語要を收録する。(二)法語で學人に示す法語二十六篇。(三)偈頌百數十首。(四)贊語で佛祖贊及び自贊。(五)法眷である平江路靈巖寺了菴清欲撰の竺仙和尚行道記。(六)翰林學士修國史臨川危素撰の竺仙和尚塔銘。(七)元の至正十八年八月九日（1358）了菴清欲の跋。(八)元の至正二十五年九月（1365）四明の楚石梵琦の跋等を收録する。

卷下の上には、(一)建武元年（1334）十一月十五日入寺した金寶山淨智寺語録。(二)建武五年（1338）十月三日入寺の三浦長坂山の無量壽禪寺語録並びに裔翊等との問答等を收